



生活は文化なり : 許嘉璐著 『中国古代衣食住行』
中華書局 2013年出版

湯, 瑾

(Citation)

年報Promis, 2(1):125-125

(Issue Date)

2024-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100489187>



許嘉璐著 『中国古代衣食住行』 中華書局 2013 年出版

生活は文化なり

湯 瑾

TANG Jin

I 活動内容

評者は特定の言語に拘らず、翻訳研究を専門としている。そのため、翻訳研究に深く関わる言語コミュニケーション、文化学関係も射程圏内と考えられる。現在、非常勤講師として文化人類学、ビジネス日本語と中国語の授業を担当している傍ら、国際会議での同時通訳を務めている。時には、新聞紙に記事を寄稿する。

II 書評

本書は 2013 年に中華書局によって「挿絵珍藏本」として出版され、その後何度も増刷を重ねた人気図書である。評者が手に入れたのは 2022 年の七回目のものである。現在、他大学の先生たちと翻訳チームを組み、日本での出版を向けて試行錯誤しているところである。

本書は第 1 章「服と装飾品 頭衣・体衣・装飾品」、第 2 章「飲食と器 主食・肉食・調理法・酒・食器と飲食慣習」、第 3 章「住居と暮らし 住居・家具と暮らし・皇居の庭」と第 4 章「車馬と交通 車と馬・車の部品と馬の装飾・乗車時の礼儀・車の種類・兵車・歩行・道路」の四部分から構成されている。中国古代の衣食住と交通事情について非常に詳しく整理されており、専門性を重視しながらも物語性に富んでいるため、一般的な読み物としても面白い。

例えば、服飾と帽子の説明を扱った第 1 章では、「頭衣、体衣、足衣」という 3 つの方面から頭・体・足を被るものが紹介されている。現代人が使っている「帽子、衣、靴・靴下」という用語の意味は、時代の変遷とともに変化してきたため、著者は厳密に「衣」を使い、「頭衣、体衣、足衣」と呼んでいる。古代中国の人々が頭に何を着用していたかを説明するため、「冠、冕、弁、冑」という 4 種類の「頭衣」に焦点を当て、第 1 章の各節では冠の形・構造と部品、頭衣の素材、一般市民の頭衣や女性の髪飾りなどについて綿密に説明している。位階、身分、職業、性別の異なる人々がどのように頭部を装飾しあるいは保護していたか、どのようなこだわりや作法があったか、また時代とともにどのような変化が起こったかなど、本書を読めば古代中国人の「頭衣」の全体像を捉えることができよう。そこは日本の帽子文化と結び付けて、比べながら読んでいけばより楽しんで頂ける。

著者の許嘉璐氏は中国訓詁学・古代中国文化学の重鎮である。本書は『詩経』、『礼記』、『漢書』のような古典、さらに多くの漢詩から関係文言を引用して説明している点が大きな特徴である。写真や史料の図表、注釈も充実しており、中国の古代文化に対してより理解を深める一冊である。